

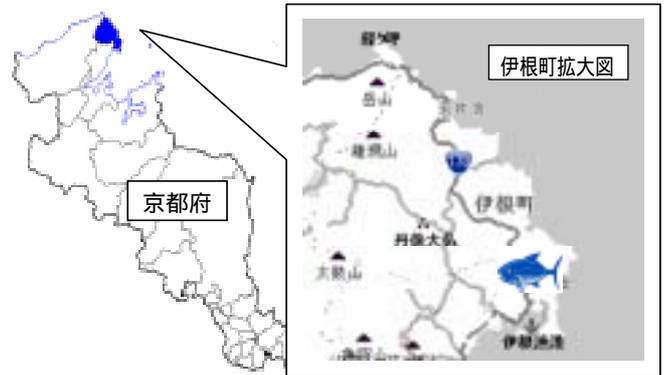
「伊根まぐろ」の畜養を核とした地域活性化
 ~観光との相乗効果を目指す(京都府伊根町)~

【京都財務事務所】

1. 地域の概要

京都府与謝郡伊根町は、京都市から北北西約 140 キロ、丹後半島の北東端に位置する農林水産業の町です。

伊根湾を取り囲んでいる舟屋群が平成 5 年に放映された NHK 朝の連続テレビ小説「ええによぼ」のロケ地となったことから全国的に有名となり、観光客が増加しました。



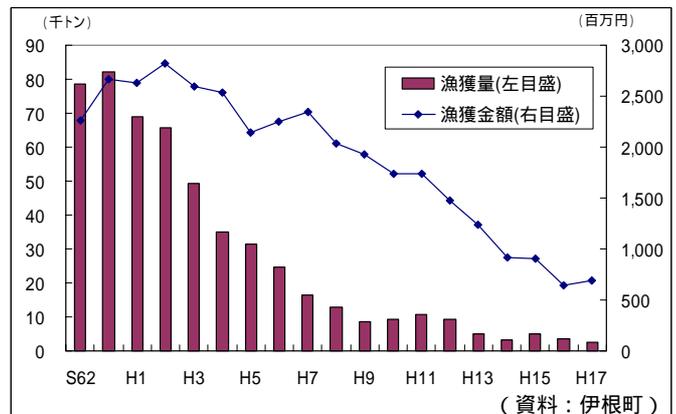
一方、町の人口推移をみると、昭和 30 年に約 7,700 名であった人口が高度経済成長と特に 38 年豪雪による山間部の集団離村により 4 つの集落が廃村となったことなどから平成 17 年には約 2,700 名と過疎化が著しく進行しています。

また、都市部から離れているなど地理的条件に恵まれず、道路等のインフラも十分でないこともあり、産業の立地も進まない状況にあります。

このような状況の中、同町は、漁業協同組合・企業等と連携して、基幹産業である水産業の分野で「まぐろの畜養」に取り組むとともに、観光との相乗効果による地域活性化に努めています。

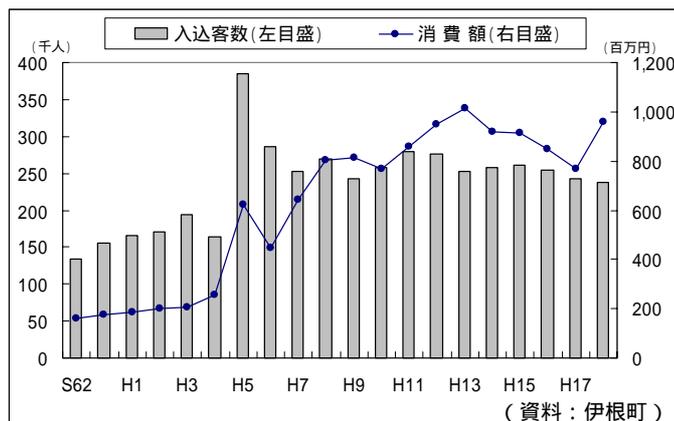
2. 水産業の状況

同町の漁業生産量は、昭和 58 年以降イワシの豊漁により 7 万トン台で推移し、昭和 63 年に 8 万 2,000 トンに達しましたが、その後イワシの激減により年々減少し、平成 17 年には約 2,400 トン(昭和 62 年比 97.0)まで激減しています。また、漁業従事者も昭和 50 年の 354 名(就業人口比 14.0%)から、平成 17 年の 222 名(就業人口比 16.6%)へと、年々減少しています。



3. 観光客の状況

同町の観光客数は、NHKの連続テレビ小説で同町が注目された平成5年を境に、それまでの15～19万人台から23～28万人台に増加しており、近年は横ばいで推移しています。府外からの観光客が8割程度であるものの、宿泊施設がそれほど多くないことから、日帰り客の割合が8割超と高くなっています。また、観光消費額は、13年をピークに減少傾向にあります（18年は増加）。



4. 取り組み事例 ～ まぐろを畜養して「伊根まぐろ」として出荷 ～



このような中、同町では、漁業協同組合と企業が連携してマグロの畜養に取り組んでいます。

これは、日本海で夏場に捕獲した100キロ前後のまぐろを伊根湾の大型生け簀で畜養し、肉質を向上させたうえ、需要期である12月～3月に出荷するというもので、このまぐろは「伊根まぐろ」のブランドで出荷されています。

もともと伊根湾は、山陰から福井沖にかけてのまぐろの漁場として好位置であったことなどから、18年に試験的に畜養・出荷して市場調査を行い、19年から生け簀の正式免許を取得して本格的に出荷を始めました。

18年度実績は出荷量16トン・出荷額60百万円でしたが、19年度の計画出荷量約80トで、19年12月末現在では、出荷量35トン・出荷額134百万円と実績をあげています。

これにより、雇用機会の拡大や漁業協同組合の収益安定などにも寄与しています。

5. 今後の課題

このように同町では、水産資源の減少など厳しい環境にある基幹産業を「獲る漁業から作り育てる漁業へ、さらには見せる漁業へと転換の推進」を図ることで、今後、水産業とあわせて観光との相乗効果による地域の活性化を目指しています。

既にブリ養殖で一定の成果が上げられていますが、「伊根まぐろ・伊根ブリあじみ会」などを開催するなどして、ブランド化・販売促進などに取り組んでいます。

地域の特性である「舟屋群・好漁港の伊根湾」を活かして、地域関係者が一体となった取り組みが期待されます。

(伊根町ホームページアドレス <http://www.town.ine.kyoto.jp/>)